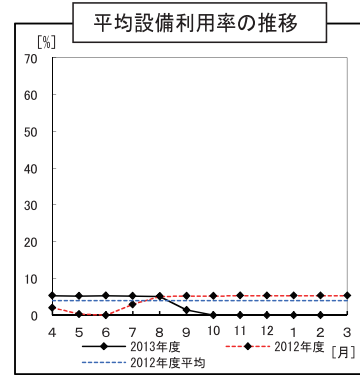


わが国の原子力発電所の運転実績

会社名	発電所名	炉型	認可出力 [万kW]	2014年2月				備考
				発電電力量 [MWh]	設備利用率 [%]	稼働時間 [時]	時間稼働率① [%]	
原電	東海第二	BWR	110.0	0	0.0	0	0.0	東北地方太平洋沖地震に伴う停止(11/3/11-〈第25回定検中〉) 第33回定検中(11/1/26-)
	敦賀 1	"	35.7	0	0.0	0	0.0	
	"	PWR	116.0	0	0.0	0	0.0	*1
北海道	泊 1	"	57.9	0	0.0	0	0.0	第17回定検中(11/4/22-) 第16回定検中(11/8/26-) 第2回定検中(12/5/5-)
	"	2	57.9	0	0.0	0	0.0	
	"	3	91.2	0	0.0	0	0.0	
東北	女川 1	BWR	52.4	0	0.0	0	0.0	東北地方太平洋沖地震に伴う停止(11/3/11-〈第20回定検中〉) 第11回定検中(10/11/6-、起動中地震により自動停止) 東北地方太平洋沖地震に伴う停止(11/3/11-〈第7回定検中〉) 第4回定検中(11/2/6-)
	"	2	82.5	0	0.0	0	0.0	
	"	3	82.5	0	0.0	0	0.0	
	東通 1	"	110.0	0	0.0	0	0.0	
東	福島第二 1	"	110.0	0	0.0	0	0.0	東北地方太平洋沖地震に伴う停止(11/3/11-) 東北地方太平洋沖地震に伴う停止(11/3/11-) 東北地方太平洋沖地震に伴う停止(11/3/11-) 東北地方太平洋沖地震に伴う停止(11/3/11-) 第16回定検中(11/8/6-) タービン制御系の油漏えいに伴う中間停止(07/7/5-) 新潟県中越沖地震に伴う中間停止(07/7/16-〈第10回定検中〉) 新潟県中越沖地震に伴う中間停止(07/7/16-〈第10回定検中〉) 第13回定検中(12/1/25-) 第10回定検中(12/3/26-) 第10回定検中(11/8/23-)
	"	2	110.0	0	0.0	0	0.0	
	"	3	110.0	0	0.0	0	0.0	
	"	4	110.0	0	0.0	0	0.0	
	柏崎刈羽 1	"	110.0	0	0.0	0	0.0	
	"	2	110.0	0	0.0	0	0.0	
	"	3	110.0	0	0.0	0	0.0	
京	"	4	110.0	0	0.0	0	0.0	
	"	5	110.0	0	0.0	0	0.0	
	"	6	135.6	0	0.0	0	0.0	
	"	7	135.6	0	0.0	0	0.0	
中部	浜岡 3	BWR	110.0	0	0.0	0	0.0	第17回定検・津波対策実施中(10/11/29-) 点検停止(11/5/13-〈第13回定検・津波対策実施中〉) 点検停止(11/5/14-〈第5回定検・津波対策実施中〉)
	"	4	113.7	0	0.0	0	0.0	
	"	5	138.0	0	0.0	0	0.0	
北陸	志賀 1	BWR	54.0	0	0.0	0	0.0	*2 第3回定検中(11/3/11-)
	"	2	120.6	0	0.0	0	0.0	
関	美浜 1	PWR	34.0	0	0.0	0	0.0	第25回定検中(10/11/24-) 第27回定検中(11/12/18-) 第25回定検中(11/5/14-) 第27回定検中(11/1/10-) 第27回定検中(11/11/25-) 第21回定検中(12/2/20-) 第20回定検中(11/7/21-) *3 第24回定検中(11/12/16-) 第16回定検中(13/9/2-) 第15回定検中(13/9/15-) 自主点検に伴う停止(10/3/31-〈第29回定検中〉) 第17回定検中(12/1/27-) 第28回定検中(11/9/4-) 第23回定検中(12/1/13-) 第13回定検中(11/4/29-) 第28回定検中(11/12/1-) 第23回定検中(11/1/29-) 第13回定検中(10/12/11-) 第11回定検中(11/12/25-) 第21回定検中(11/5/10-) 第20回定検中(11/9/1-)
	"	2	50.0	0	0.0	0	0.0	
	"	3	82.6	0	0.0	0	0.0	
	高浜 1	"	82.6	0	0.0	0	0.0	
	"	2	82.6	0	0.0	0	0.0	
	"	3	87.0	0	0.0	0	0.0	
	"	4	87.0	0	0.0	0	0.0	
	大飯 1	"	117.5	0	0.0	0	0.0	
中国	島根 1	BWR	46.0	0	0.0	0	0.0	自主点検に伴う停止(10/3/31-〈第29回定検中〉) 第17回定検中(12/1/27-)
	"	2	82.0	0	0.0	0	0.0	
四国	伊方 1	PWR	56.6	0	0.0	0	0.0	第28回定検中(11/9/4-) 第23回定検中(12/1/13-) 第13回定検中(11/4/29-)
	"	2	56.6	0	0.0	0	0.0	
	"	3	89.0	0	0.0	0	0.0	
九州	玄海 1	"	55.9	0	0.0	0	0.0	第28回定検中(11/12/1-) 第23回定検中(11/1/29-) 第13回定検中(10/12/11-) 第11回定検中(11/12/25-) 第21回定検中(11/5/10-) 第20回定検中(11/9/1-)
	"	2	55.9	0	0.0	0	0.0	
	"	3	118.0	0	0.0	0	0.0	
	"	4	118.0	0	0.0	0	0.0	
	川内 1	"	89.0	0	0.0	0	0.0	
	2	89.0	0	0.0	0	0.0		
合計または平均			4,426.4	0	0.0	0	0.0	
()は前年度			(4,614.8)	(1,649,007)	(5.3)	(1,488)	(4.0)	
時間稼働率②							0.0	
()は前年度							(5.1)	

備考：*1 一次冷却材中の放射能濃度上昇に伴う点検停止(11/5/7-〈第18回定検中〉)
*2 原子炉冷却材再循環ポンプ軸封部取替に伴う停止(11/3/1-〈第13回定検中〉)
*3 第24回定検中(10/12/10-、調整運転(11/3/13-7/16)、蓄圧タンク圧力の低下に伴う停止(11/7/16-9/20))

※お断り
圧力プレート設置に伴い、志賀2は135.8万kWから120.6万kWに出力を変更している。各表のデータは、変更後の数値に基づく。



炉型別平均設備利用率

炉型	基数	出力 [万kW]	設備利用率 [%]
BWR	24	2,398.6	0.0
PWR	24	2,027.8	0.0

電力会社別平均設備利用率

会社名	基数	出力 [万kW]	設備利用率 [%]
日本原子力発電	3	261.7	0.0
北海道	3	207.0	0.0
東北	4	327.4	0.0
東京	11	1,261.2	0.0
中部	3	361.7	0.0
北陸	2	174.6	0.0
関西	11	976.8	0.0
中国	2	128.0	0.0
四国	3	202.2	0.0
九州	6	525.8	0.0

$$\text{設備利用率} = \frac{\text{発電電力量}}{\text{認可出力} \times \text{層時間数}} \times 100 (\%)$$

$$\text{時間稼働率①} = \frac{\text{発電時間数}}{\text{層時間数}} \times 100 (\%)$$

$$\text{時間稼働率②} = \frac{(\text{認可出力} \times \text{稼働時間}) \text{の合計}}{(\text{認可出力} \times \text{層時間}) \text{の合計}} \times 100 (\%)$$

ミシクシの集群



東京大学大気海洋研究所は、このほど、プラスチック表面をフラスマ処理で親水化することにより、クラゲの幼生の付着が低下したとする研究成果を発表した。電気事業や漁業の妨げとなるクラゲ大発生へのメカニズム解明や、新たな防除技術開発につながることも期待される。

今回の研究で用いられたミシクシは、卵からふ化した幼生(アララ)が海水中を浮遊した後、貝殻や岩だけでなく、海岸部のフロートや桟橋などの人工構造物にも付着する(着底)。着底後、ポリブと呼ばれるイソギンチャク様の形に変態し、分裂によって増加する。

東大海洋研
所はこのほど、プラスチック表面をフラスマ処理で親水化することにより、クラゲの幼生の付着が低下したとする研究成果を発表した。電気事業や漁業の妨げとなるクラゲ大発生へのメカニズム解明や、新たな防除技術開発につながることも期待される。

クラゲ幼生の付着防止で成果

2月の原子力発電利用率
原産協会の取りまとめによると、2月の国内原子力発電は、前月に引き続き全基停止であった。(11上表)

ることから、アララの着底を防ぐことで、クラゲの大発生を制御できると着目し、海洋構造物や漂流・漂着ゴミとして知られるプラスチック(ポリカーボネート)をモデル材料に着底実験に取り組んだ。

ポリカーボネート(PC)板表面の親水性の程度を変える方法として、大気圧フラスマの技術を用い、プラスチック処理したPC板でアララの着底実験を行った結果、処理前のPC板には一平方メートル当たり四十万個体の着底が見られたのに対し、親水化したPC板の表面では最も顕著なもので五万個体にまで抑制されていた。また、フラスマ処理後のPC板の表面を電子顕微鏡で観察したところ、処理前後で表面構造の物理的な変化がないことも確認された。

政府、11日に大震災追悼式
政府主催の「東日本大震災三周年追悼式」が十一日午後二時半から、東京の国立劇場で執り行われる。追悼式当日の午後二時四十分、式場で一分間の黙とうを捧げ、震災による全ての犠牲者に対して哀悼の意を表す。政府では、国民もこれに合わせ、それぞれの場所を呼びかけている。

ることから、アララの着底を防ぐことで、クラゲの大発生を制御できると着目し、海洋構造物や漂流・漂着ゴミとして知られるプラスチック(ポリカーボネート)をモデル材料に着底実験に取り組んだ。

第47回 原産年次大会 2014年4月15-16日

会場:東京国際フォーラム (東京都千代田区丸の内3-5-1)

大会参加費 (レセプション参加費含む) 会員:¥50,000 会員外:¥72,000

基調テーマ:信頼回復に向けた決意

お申し込みはウェブから www.jaif.or.jp

開会セッション
今井 敬 原産協会 会長
岡 芳明 次期原子力委員長
A. ビチコフ IAEA 事務局長 (依頼中)
廣瀬 直己 東京電力 代表執行役社長
ほか

セッション1
原子力への信頼回復
田中 伸男 原産協会 理事 元 IEA 事務局長
八木 誠 電気事業連合会 会長
K. スビニッキ 米国原子力規制委員会 (NRC) 委員
A. リーシング 世界原子力協会 (WNA) 事務局長
M. グリムストーン 英王立国際問題研究所 研究員
島澤 守 日本電機工業会 原子力政策委員会 副委員長
安井 至 製品評価技術基盤機構 理事長

セッション2
2050年の原子力
澤 昭裕 国際環境経済研究所 所長
H.A. ヤマニ サウジアラビア KACARE 理事長
J-P. ボンセラ 欧州原子力産業協会 (FORATOM) 理事長
F.E. オサイサイ ナイジェリア原子力委員会 委員長
ほか

福島セッション
福島の復興と地域再生
加藤 秀樹 構想日本 代表
V. ウドヴィチエンコ ウクライナスラブチチ市長
遠藤 雄幸 福島県川内村長
瀬谷 俊雄 福島商工会議所 顧問
丹波 史紀 福島大学 うつくしまふくしま未来支援センター 准教授
大和田 新 ラジオ福島 編成局 専任局長

お問い合わせ 一般社団法人 日本原子力産業協会
TEL: 03-6812-7109 e-mail: 47th-annual@jaif.or.jp